

# 議案

## 1 赤字に籍口せる人件費削減反對闘争の件

提案本部

### 理由

名を公共事業の粉飾の美名に籍り、其の本質は金融資本家の搾取の基礎的條件のもとに昭和七年度豫算が編成された、従つて市電氣當局が所謂赤字に悩む今日如何に莫大な利潤が金融資本家に獨占され搾取されてゐるか云ふことを、先づ吾等は究明し、而して赤字に籍口せる人件費削減に對し、斷乎として反對せねばならないのだ。

試みに昭和七年度電車軌道豫算の内容を一瞥するに、電車収入總豫算一千四百八十八萬餘圓の約四分に相當する六百六十八萬餘圓の莫大な所謂利潤が、公債の利子及償還、即ち公債費組替と云ふ名目のもとに、金融資本家の祭壇に供せられてゐる。

此の約六百七十萬圓の利潤の追窮が収入見積り過大、所謂赤字となつて現れ来る事は蓋し當然でなければならぬ、既に聽く處に依れば約七十萬圓餘の赤字を出してゐるとの事である。

吾等は云ふ、市電氣當局の謂ふ赤字とは——金融資本家への搾取を合理化す爲めの合言葉である！

尙他面に於ては、資本主義經濟組織のもとに無政府的自由投資に依る現代都市交通産業の無統制から来る極度なる亂脈は、獨り大阪市電のみならず六大都市を中心に金融資本家の搾取たる赤字をして、より強力な拍車を加へつゝある

斯の如き資本主義經濟組織の一切の矛盾から来る所謂赤字をして其の責任の轉嫁を吾等従業員の人件費削減に振り向けんとする市電氣當局の陰謀に對し斷乎反對する。

而して昭和八年度人件費削減豫算編成を前に、金融資本家大財閥の搾取、所謂市債利子のモラ斷行の闘争を通じて昭和八年度人件費削減豫算の陰謀を粉砕せねばならない。

昭和七年度實行豫算に於ける人件費削減絕對反對！  
昭和八年度人件費削減豫算絕對反對！

## 2 運轉時分改悪に依る勞働強化絕對反對の件

提案本部

### 理由

當市電氣局に於いては昭和四年度以降收入減に名を籍りて極端なる消局政策を固持して來たが、必然的に其の破綻の時は來りて何等かの方法に依りて彌縫せざれば遂に收拾し難きまでに逼迫して來た。其の現れの一つとして去る七月廿六日より斷行されしスピードアップに依る我々労働者への重壓がそれだ。

即ち時代の趨勢に籍口して電車運轉時分を改悪し、一系統毎に標準時分を定め延着有効時分より遅れたる者に對しては其の延着時分を給けしない制度を設けて我々を牛馬の如くに酷使し、其の過剰努力に依つてのみ運輸能率を高めんとした蓋しスピードアップを斷行せんとするなれば少くとも完備せる電車と完全なる軌道と整備せる道路が必ず具備されて居なければならぬ筈である。然るにどうだ、極く一部を除いては劣悪極りなき軌道の上に骨董品型の電車を乗せて、車馬の難踏極りなき街路を庶二無二に走れと言ふ。

只乗務員の努力に依つてのみ走れと言ふ、何たる矛盾ぞ、何たる搾取ぞ、

當局はかゝる矛盾と搾取を敢てして兎も角も無理押しにスピードアップ以前よりは一割五分の運輸能率を引上げて消極政策を糊塗して居るが鬪つて俺達は之に依つて何を得たか、

精神と身體の疲勞による諸種の疾病と交通事故に依る不當處罰と延着時間の無報酬提供以外に何物もなかつた。

スピードアップが時代の要求なりとするなれば、我々は之に對して敢て反對しないがそれが爲めに俺達が暴虐なる壓迫の下に於かるゝ事は絕對反對だ。